

目的 自動車数の増加に伴い交通事故も増加し、その痛ましさは目を覆うばかりである。歩行者が運転者に視認されることが必要である。特に幼児・高齢者の交通弱者のために、誘目性の高いワッペンを設計し、交通安全に役立てたいと考える。高齢者向けに再帰反射素材のPATCHを配布している自治体もあり、歩行者が自ら存在を明らかにすることも重要である。これまで目立つ色を研究してきたが、今回はワッペンの形をどのようにデザインする事が、視認性が高いかを調べることを目的とした。

方法 小学一年生が交通安全協会から配布されるU型のワッペンと同一面積で代表的な形、円形、三角形、四角形で検討することにした。四角形は辺の比率を変え、また図形の方法をも変え、8種類の刺激とした。運転者が瞬時に判断することを考え、観察時間を10秒とし、観察環境は明所視 300lx、暗所視 1 lx の照度で実験を行った。被験者は学生と高齢者である。

結果 8種類の形の刺激を配置を変えて提示し、明るい場合、暗い場合で実験を行った結果、①円形、正三角形上向き、正三角形下向きが他の形に比較して誘目性が高いことが判明した。②円形の場合に明所視と暗所視に差がみられた。③暗所視では正三角形上向き、正三角形下向きの誘目性が高かった。④U型のワッペンの目立ち順位は明所視では5位、暗所視では7位であり、誘目性はあまり良くなかった。